

教育センター通信

ほど 火床の火の心を紡ぐ

第6号（通算56号）
平成30年10月25日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



一ノ木戸ポプラ学園
リトルティーチャー活動
9月26日(水)

教師は太陽であれ!!

教育センター 指導主事 武井 正明

ある学校へ訪問に行った時のことです。

教頭先生が迎えてくださいました。そしてすまなそうにこう言います。「武井先生、本当に申し訳ありません。ただいま校長は家庭訪問に行っておりまして・・・」校長室の入口には「楽屋」と書いてある遊び心あふれるのれんが掛かっていました(私の自室には大相撲ののれんが掛かっています)。校長室の中に入るといくつかの着ぐるみが置いてあります。

しばらくすると、頭をかきながら校長先生が戻られました。不登校傾向の子どもに少しでも学校にプラスのイメージをもってもらうために着ぐるみを着て家庭訪問したと聞き、何とも言えない感動を覚えました。私は校長先生の姿から「教師は太陽であれ!!そして役者であれ!!」という熱いメッセージを受け取ったような気がしました。そのメッセージが先生方に伝わっていることが、その後の授業と協議会を見てすぐに分かりました。

授業をされた先生は、表情豊かに、いっぱい笑顔で子どもたちを包み込むように問いかけていきます。その温かい言葉のキャッチボールが、教室をさらに安心した何とも言えない心地よい空間にしています。カメラを構えながら、私までその世界に引き込まれていきそうになりました。

学園内の小学校の先生方が集まった授業後の協議会も、充実した意義深い時間になりました。グループ協議の際、ある班では学習問題(◎)が話題になっていました。「これは学習活動で学習問題にはなりきっていませんよね。」「こういう感じの問いかけにすると学習問題になるんじゃないですか。」そのやりとりに授業者も加わって、認識や相互理解が深まります。どの班も非常にレベルの高い意見交換をされていました。

毎回感じるのですが、OM訪問で一番勉強させてもらっているのは、他ならぬ訪問者自身なのかもしれません。貴重な時間を共有させてもらっています。これからも先生方と子どもたちの笑顔を楽しみに、少しでも学校のプラスになるように訪問させていただきます。

学園の取組紹介 ～さかえ学園～

地域へ働きかける「さかえ学園」の小中一貫教育の活動

さかえ学園では、小中一貫教育推進活動として「フラワーロード活動」と「あいさつ運動」を行いました。



フラワーロード活動 (10/9)

「フラワーロード活動」は、毎年、小学校5年生と中学校1年生の児童・生徒が地域の方々とともに、スイセンの球根を植え、地域の環境に働きかける活動です。今年もたくさんの球根が植えられました。来年の春に美しい花が道を彩り、地域の方や訪れた人々の目を楽しませることでしょう。



「あいさつ運動」は、学校前だけでなく帯織駅前でも行われました。小学生と中学生が一緒になって、駅を利用する地域の方々へ「おはようございます」と元気に声をかけていました。あいさつを交わすことで、児童・生徒と地域の方との心が結ばれていきます。

これらの活動を通して、地域を愛する気持ちが、「さかえ学園」の児童・生徒の心に着実にほぐまれていくことと思います。



帯織駅前 (10/2)

学園の取組紹介 ～三条おおじま学園～

結びつきを強める「三条おおじま学園」の新たな2つの取組

三条おおじま学園では、小規模校ならではの取組を新たに始めました。

<三条おおじま学園持久走大会 10月10日>

好天に恵まれたこの日、総合グラウンドにおいて、大島小と須頃小の全児童が健脚を競いました。とは言え、“学校対抗”という意識ではなく学園の仲間として共に走り切ろうと誓い合ってレースに臨みました。



レース後の両校児童



1・2年生は800m(2周)、3・4年生は1,200m(3周)、5・6年生は1,600m(4周)を駆け抜けました。

レース後は両校で健闘をたたえ合う姿がありました。

<三条おおじま学園音楽祭 10月21日>

学園の全児童・生徒が一堂に会する機会となったこの音楽祭は、三条おおじま学園の新たな歴史を刻みました。

小学生が披露する合唱や合奏によって中学生は懐かしさを抱くとともに、自分たちの成長を実感する時間となりました。また、小学生は、中学生の堂々とした姿と厚みのある歌声に引き込まれ、憧れの眼差しを向けていました。



大島小の発表を聞く須頃小児童と大島中生徒

閉会式では、中学生も自分の卒業した小学校の校歌を一緒に歌いました。

保護者や地域の方々も大勢参加されていました。



それぞれの小学校の校歌を小・中学生で歌う。

大島中生徒会副会長 閉会のあいさつ

「たくさんの思い出がよみがえってきました。小学校だけ、中学校だけでは味わえない音楽祭になりました。これからも三条おおじま学園を元気にしていきましょう。」

「第1回 hyper-QU の結果から見た三条市の児童生徒の課題」

小中一貫教育推進課 指導主事 田村 和弘

1 第1回の結果の概観

今年度の第1回 hyper-QU の結果を概観すると満足群に属する児童生徒の割合、学校生活に関する意欲の得点とソーシャルスキルに関する得点で全国平均を大きく上回りました。これは市内の教職員の皆様が、hyper-QU の結果を丁寧に分析され、規範意識と温かい人間関係づくりを柱にきめ細やかな学級経営をされている成果であります。

2 三条市の児童生徒の課題

(1) 小学生の学習意欲

全国平均を上回っていますが、他の意欲の項目と比べ、全国平均との差が小さいという結果が出ました。また、学年が上がるごとに低下傾向にあることが分かりました。

(2) 中学生の学習意欲と進路意識

学習意欲、進路意識ともに全国平均を上回っていますが、他の意欲の項目と比べ、全国との差が小さいという結果が出ました。また、1年生から2年生にかけて大きく下がる傾向があることが分かりました。

3 学習意欲・進路意識を高めるカギ

桜井(1997)は内発的学習意欲を支えるものとして、「有能感(自分は勉強ができる)」、「自己決定感(自分のことは自分で決めている)」、「他者受容感(自分はまわりの大切な人から受容されている)」を挙げています。このことから教師は次のことを意識して指導・支援をする必要があります。

- ① 分かる授業を展開して有能感を感じさせる。
- ② 「学習問題◎」を大切に授業展開をして、一人一人の児童生徒の問題意識を高める。
- ③ 温かい人間関係のある学級をつくり、受容感を高める。

図1は学習意欲の相対的強さの変化(新井1995)を表したものです。ここから低学年は「賞罰による学習意欲」が、中・高学年は「規範意識による学習意欲」が、中学生は「自己目標実現のための学習意欲」が最も強くなることが分かります。このことから発達段階を考慮して、次のことを教師は意識して指導・支援をする必要があります。

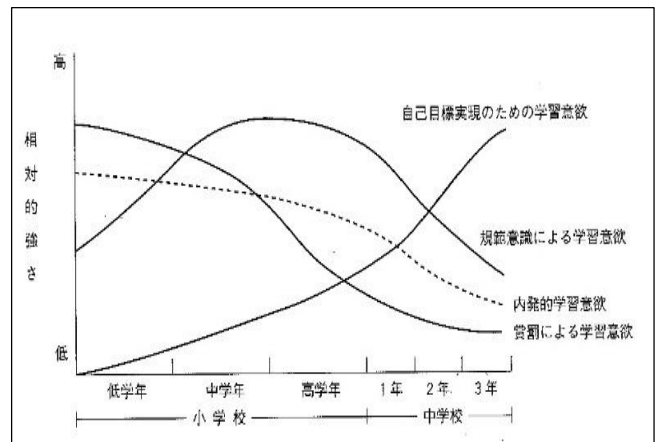


図1 学習意欲の相対的強さの変化

- ① 低学年は授業の中で誉めることを多くする。
- ② 中・高学年は児童に期待して、学習を任せる部分(主体的な学び)を意図的に取り入れる。
- ③ 中学生はキャリア教育を充実させ、自らの目標を明確にさせた上で、学習と今の生活のつながりを意識する場面を設定する。

4 まとめ

学習意欲や進路意識を高めるために新しいことをする必要はありません。3で挙げた6つのポイントは三条市の先生方が現在行っていることです。この質を少し上げるだけでよいのです。

<図1の学習意欲の解説(桜井1997)を参考に>

- 内発的学習意欲=学習内容そのものに面白さを感じて学習する場合
- 自己目標実現のための学習意欲=自己実現するため、自らの目標を自己決定し、その目標に向かって学習する場合
- 規範意識による学習意欲=「親や教師の期待するような子どもになりたい」という理由から学習する場合
- 賞罰による学習意欲=「親や教師にしかられたくない、たくさん誉められたい」という理由から学習する場合

<参考文献>

桜井茂男 1997 学習意欲の心理学 誠信書房 P41-42

新井邦二郎 1995 「やる気」はどこから生まれるのか～学習意欲の心理～ 児童心理2月号臨時増刊 P3-11